

2022 年度
年次報告書

東京理科大学国際化推進機構
国際化推進センター

* 目 次 *

国際化推進センター長挨拶	4
国際化推進機構・センター概要	5
①組織.....	5
②国際化における重点課題・重点課題 (中期課題 2026 をもとに)	6
2022 年度事業報告	8
< 1. 教員のグローバル化を促進するための在外研究員制度の拡充 >	9
①在外研究員派遣事業	9
②在外研究員派遣事業 (任期付き教員向け)	10
< 2. 学生の国際競争力を高めるプログラム整備 >	11
(1) 学生の国際競争力を高めるプログラム整備	11
① カリフォルニア大学 1 年留学プログラム	12
② ダブルディグリープログラム派遣	12
③ 協定校等の派遣学生事業	14
④ 語学研修プログラム	15
⑤ インターンシッププログラム	17
⑥ セルフスタディプログラム	17
(2) 世界を身近にする環境整備	18
インターナショナルラウンジ	18
< 3. 大学院生の国際会議発表促進 >	22
大学院博士後期課程学生国際学会等派遣事業	22
< 4. 若手研究者国際会議派遣の推進 >	24
若手研究者国際学会派遣事業	24
< 5. 外国人教員ならびに研究室の国際化の推進 >	26
(1) 外国人教員の増員	26
(2) 外国人留学生獲得による研究室の国際化の推進	27
①ダブルディグリープログラム受入	27
②協定校等からの学生受入事業	27
③国費外国人留学生制度	28
④マレーシアツイニングプログラム	29
⑤IAESTE による海外学生受入	29
⑥ 科学技術振興機構「日本・アジア青少年サイエンス交流 事業 (さくらサイエンスプラン)」	30
⑦双方向交流プログラム派遣	31
⑧双方向交流派遣プログラム受入れ	31
⑨さくらサイエンス双方向交流派遣	31

⑩ビザ取得支援.....	32
(3) 英語を用いた指導による研究室の国際化の推進.....	33
教員向け実務英語研修 「Academic English Brush-up Seminar」	33
<6. 海外教育研究機関との連携強化>.....	34
(1) 海外教育機関との連携強化.....	34
海外協定校	34
(2) 教員交流による海外教育研究機関との連携強化.....	35
① 協定校からの研究者受入れ事業.....	35
② 外国人招へい教員事業.....	35
③ 外国人招へい教員（オンライン）事業	36
<7. その他>.....	37
(1) 学生への情報提供の充実	37
① パンフレットの作成、サイトの更新	37
② チャットボットの導入.....	37
② LINE	37
(2) 海外留学等における危機管理のための施策	38
①J-TAS 利用	38
②学生事故対策費用保険.....	38
③大学が企画する海外留学のための賠償責任保険 （施設賠償責任保険）	38
(3) 学内宿泊施設の管理・利用促進	39
学内宿泊施設の管理・利用促進	39
(4) 学外団体の利用	40
①トビタテ！留学 JAPAN 新日本代表プログラム	40
②JASSO.....	40
③JSPS	41
④JAFSA	41
⑤JCSOS.....	42
⑥IAESTE.....	42
⑦米国非営利教育財団 スタディ・アブロード・ファウンデーション(SAF).....	42
⑧オープンバッジ・ネットワーク	43
(5) その他	44
外国人留学生獲得施策	44

国際化推進センター長挨拶

国際化推進センター長 牧内 博幸

大学を取り巻く内外情勢が大きく変化する中で、「国際化」の推進は益々重要となってきました。

本学の、「日本の理科大から世界の理科大へ」というビジョンのもと、本センターでは「学校法人東京理科大学中期計画 2026」における国際化の課題である以下の事項を優先的に実行に移してまいりました。

・重点課題

1. 教員のグローバル化を促進するための在外研究員制度の拡充
2. 学生の国際競争力を高めるプログラム整備

・継続課題

1. 大学院生の国際会議発表促進
2. 若手研究者国際学会派遣の推進
3. 外国人教員の増員ならびに研究室の国際化の推進

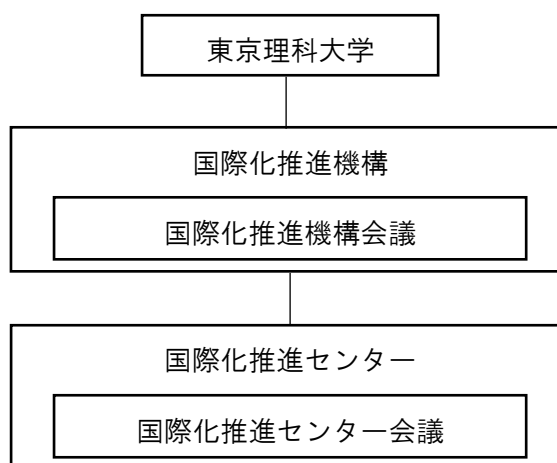
2020 年度及び 2021 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、国際交流活動が大きく制限されておりました。2022 年度に漸く、わが国における水際対策の規制緩和等の動きがあり、本学においても、海外渡航を伴う派遣事業及び海外からの受入事業を限定的に再開することとしました。本報告書はその結果を取りまとめたものです

2023 年度は、各事業をコロナ前の水準に戻して提供していくとともに、利便性が高いオンラインの留学プログラムを併せて紹介するなど学生の多様なニーズに応えられるよう、努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

国際化推進機構・国際化推進センター概要

1. 組織

(1) 組織図



(2) 国際化推進機構

国際化推進機構は、本学における国際化推進施策及び戦略を企画立案するとともに、全学的な観点からグローバル人材の育成と、国際連携を推進し、本学の国際的地位の向上を図ることを目的に、2015年4月に設置された。本学の国際化を全学一体となって推進するため、「**学校法人東京理科大学中期計画 2026**」をもとに、2022年度から2026年度までの5年間に実施すべき国際化推進の方針、目標、具体的施策の立案に取り組む。

【国際化推進機構会議】

国際化推進機構に、機構の運営に関する事項を審議するため、国際化推進機構会議（以下「機構会議」）を置く。機構会議は、次に掲げる事項を審議する。

- ① 国際化推進方針及び国際化推進戦略の策定に関する事項
- ② 機構の事業計画に関する事項
- ③ センターの設置及び改廃に関する事項
- ④ 機構の人事に関する事項
- ⑤ 機構に関する諸規程等の制定及び改廃に関する事項
- ⑥ その他機構の管理・運営に関する事項

(3) 国際化推進センター

国際化推進機構に国際化推進センター（以下「センター」）を置き、本学における国際化推進に係る諸施策を実施するとともに、学生及び教職員の国際活動を支援し、本学の教育研究の更なる国際化に資することを目的に、以下の活動を行う。

- ① 学生の海外派遣及び受入れに関すること
- ② 教職員の海外派遣及び受入れに関すること
- ③ 外国の大学等教育研究機関との国際交流協定に関すること
- ④ 学生の語学留学プログラムに関すること
- ⑤ その他本学の国際化推進に関すること

(4) 予算（当初配分額）及び執行額

2022 年度 国際化推進機構（国際化推進センター）

予 算：105,764,000 円

執行額：72,109,042 円（執行率 68.2%）

2. 国際化における重点課題・継続課題（中期計画 2026 をもとに）

(1) 「学校法人東京理科大学中期計画 2026」の中における国際化の重点課題

2022 年の 3 月に成立した「学校法人東京理科大学中期計画 2026」には、法人・大学が一丸となって取り組む目標や課題がまとめられている。その中で、本学の国際化は、「グローバルな社会において多様な人々と交わり共創できる力」に資するものとの位置づけである。今期（2022～2026）中は、下記 2 つの課題に重点的かつ優先的に取り組むことが求められている。

- ① 教員のグローバル化を促進するための在外研究員制度の拡充
- ② 学生の国際競争力を高めるプログラム整備

(2) 国際化における継続課題

上記に上げた 2 つの重点課題の他、継続的に取り組むべき具体的な課題として下記の 3 つが設定されている。

- ① 大学院生の国際会議発表促進
- ② 若手研究者国際会議派遣の推進
- ③ 外国人教員の増員ならびに研究室の国際化の推進学生の国際競争力

国際化推進センターの各事業と中期計画 2026 における各課題との関係をまとめたものが次の図である。以降、これに基づき章立てをし、各事業の 2022 年度の実績を報告する。

学校法人東京理科大学 中期計画2026 国際化重点課題

重点課題
中期計画

③-1 教員のグローバル化を促進するための在外研究員制度の拡充

③-2 学生の国際競争力を高めるプログラム整備

継続的に取り組む
重要課題

1. 大学院生の国際会議発表促進

2. 若手研究者国際会議派遣の推進

3. 外国人教員の増員ならびに研究室の国際化の推進

学校法人東京理科大学 中期計画2026 国際化重点課題

中期計画（2022-2026年度）重点課題
【③-1 教員のグローバル化を促進するための
在外研究員制度の拡充】

関連する国際化推進センター事業

- ・ 在外研究員派遣事業
- ・ 協定校への研究者派遣
- ・ 教員向け実務英語研修

継続課題

【2. 若手研究者国際会議派遣の推進】

関連する国際化推進センター事業

- ・ 若手研究者国際学会派遣事業

海外協定校との連携
・ 重点校の設定

重点課題【③-2】

学生の国際競争力を高めるプログラム整備

関連する国際化推進センター事業

- ・ 協定校等への派遣学生事業（大学院生・中長期）
- ・ ダブルディグリープログラム派遣（大学院生・中長期）
- ・ 海外共同研究先への短期派遣学生事業（大学院生・短期）
- ・ カリフォルニア大学1年留学プログラム（学部生・中長期）
- ・ 語学研修プログラム（学部生・短期） ほか

継続課題

【1. 大学院生の国際会議発表促進】

関連する国際化推進センター事業

- ・ 大学院博士後期課程学生国際学会等派遣事業

継続課題

【3. 外国人教員の増員ならびに研究室の国際化の推進】

関連する国際化推進センター事業

- ・ 外国人招へい教員事業
- ・ 協定校等からの学生受入事業
- ・ 協定校等からの研究者受入事業
- ・ 国費外国人留学生制度 ほか

2022 年度事業報告

<1. 教員のグローバル化を促進するための在外研究員制度の拡充>

在外研究員派遣事業

東京理科大学の専任教員を海外に一定期間派遣し、専門分野に関する研究に専念させる機会を与え、教員の教育及び研究能力を向上させるとともに、当該事業での経験を活かし、外国語による専門科目の講義・研究指導が行えるような教員を養成すること、及び派遣先大学等学術研究機関と将来にわたり共同研究を遂行するための基盤を構築することを目的としている。

【国際化推進センター負担経費】

渡航費：エコノミークラスの往復航空賃

滞在費：月額 20 万円または 25 万円

※派遣先地域によって支給額が異なる

①在外研究員派遣事業

【2022 年度実績】

実施 6 名 予算執行額：12,942,020 円

	学部	学科	職名	受入研究機関	国名	出発日	帰国日	派遣日数
1	理学部第一部	応用数学科	准教授	Koblenz University of Applied Sciences	ドイツ	2023年3月25日	2023年9月3日	163
2	工学部	建築学科	教授	Lehigh University	米国	2022年5月10日	2022年7月31日	83
3	理工学部	建築学科	講師	The University of British Columbia	カナダ	2022年9月1日	2023年8月31日	365
4	理工学部	電気電子情報工学科	准教授	University of Auckland	ニュージーランド	2022年10月25日	2023年2月16日	115
5	経営学部	ビジネスエコノミクス学科	准教授	イリノイ大学シカゴ校	米国	2022年8月22日	2023年8月21日	365
6	教養教育研究院	葛飾キャンパス教養部	准教授	Department of Anthropology, York University	カナダ	2022年4月1日	2023年4月2日	367

②在外研究員派遣事業（任期付き教員向け）

【2022 年度実績】

実施 2 名 予算執行額 2,316,150 円

	学部	学科	職名	受入研究機関	国名	出発日	帰国日	派遣日数
1	理学部第二部	数学科	嘱託助教	Universidad Complutense de Madrid	スペイン	2022年11月1日	2023年1月31日	92
2	薬学部	生命創薬科学科	嘱託特別講師	National Heart & Lung Institute, Imperial College London	イギリス	2022年12月29日	2023年3月16日	78

<2. 学生の国際競争力を高めるプログラム整備>

(1) 学生の国際競争力を高めるプログラム整備

2022 年度は、わが国における水際対策の規制緩和により、海外渡航を伴う派遣事業を限定的に再開した。

	プログラム名	派遣先国・地域	派遣先大学	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
語学研修プログラム	オレゴンプログラム	米国	ポートランド大学	7	--		--	--
	サンフランシスコプログラム	米国	カリフォルニア大学デビス校	31	11		5**	0**
	ロサンゼルスプログラム	米国	カリフォルニア大学アーバイン校	10	9		--	--
	シアトルプログラム	米国	ワシントン大学	--	--		2**	--
	マンチェスタープログラム	英国	マンチェスター大学	19	11		--	--
	ケンブリッジプログラム	英国	ケンブリッジ大学ホマートン校	16	18		--	--
	ビクトリアプログラム	カナダ	ビクトリア大学	22	--	中止*	1**	--
	トロントプログラム	カナダ	ヨーク大学	--	--		--	--
	シドニープログラム	オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学	--	--		--	--
	バンクーバー (CCEL) プログラム	カナダ	Canadian College of English Language	--	15		--	--
	バンクーバー (UBC) プログラム	カナダ	ブリティッシュコロンビア大学	--	--		--	0**
	キングストン (ロンドン) プログラム	英国	キングストン大学	--	29		--	--
	セブプログラム	フィリピン	SMEAG	--	17		--	--
	シドニープログラム	オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学	--	--		--	--
	ブリスベンプログラム	オーストラリア	クイーンズランド大学	6	6		--	--
	サンフランシスコプログラム	米国	カリフォルニア大学デビス校	--	--		--	1**
	ロサンゼルスプログラム	米国	カリフォルニア大学アーバイン校	--	5	1**	--	9
	ハワイプログラム	米国	ハワイ大学マノア校	--	--	3**	--	1
	バンクーバー (UBC) プログラム	カナダ	ブリティッシュコロンビア大学	--	9	1**	3**	--
	ケンブリッジプログラム	英国	ケンブリッジ大学ホマートン校	--	8	2**	--	--
	ビクトリアプログラム	カナダ	ビクトリア大学	--	中止*	2**	--	14
	マレーシアプログラム	マレーシア	アジアパシフィック大学	8	中止*	--	--	--
セブプログラム	フィリピン	SMEAG	--	15		--	--	
			小計	119	153	9	12	35
インターンシップ (キャリアパス啓発)	シリコンバレー研修プログラム	米国		33	中止*	中止*	中止*	24
			小計	33	0	0	0	24
協定校への派遣	カリフォルニア大学1年留学プログラム	米国	カリフォルニア大学デビス校	4	0	2	中止*	5
	オストバイエルン・レーゲンスブルク工科大学への経営学生派遣	ドイツ	オストバイエルン・レーゲンスブルク工科大学	4	4	中止*	中止*	2
	ハノーファー大学への経営学生派遣	ドイツ	ハノーファー大学	2	2			0
	国立陽明交通大学とのDMDプログラム	台湾	国立陽明交通大学	2	0	1	2	0
	台北医学大学とのDMDプログラム	台湾	台北医学大学	--	0	0	0	0
	サスカチュワン大学とのDMDプログラム	カナダ	サスカチュワン大学	--	--	1	0	0
	指導教員同士の共同研究に基づく派遣(1ヶ月以上)			6	10		1	6
	指導教員同士の共同研究に基づく派遣(1ヶ月未満)			--	--			--
	双方向短期留学プログラム(西安交通大学)	中国	西安交通大学	10	0	中止*	中止*	--
	双方向短期留学プログラム(大連理工大学)	中国	大連理工大学	--	12			--
			小計	28	28	4	3	13
協定校以外への派遣	指導教員同士の共同研究に基づく派遣(1ヶ月以上)			5	6			1
	指導教員同士の共同研究に基づく派遣(1ヶ月未満)			--	1	中止*	中止*	--
	大学院博士後期課程学生国際学会派遣			43	42			23
	トビタテ！留学ジャパンによる派遣(外部機関)			9	7		1	--
	IAESTE(イアエステ)による派遣(外部機関)			--	--		--	--
			小計	57	56	0	1	24
さくらサイエンス双方向交流派遣	浙江大學	中国	浙江大學	--	--			--
	ハノイ工科大学	ベトナム	ハノイ工科大学	--	7			--
	ブネー大学	インド	ブネー大学	--	--			--
	曲阜師範大学	中国	曲阜師範大学	--	0			--
	インドネシアイスラム大学	インドネシア	インドネシアイスラム大学	--	8	中止*	中止*	--
	シーナカリンウィロート大学・チュラロンコン大学	タイ	シーナカリンウィロート大学・チュラロンコン大学	--	9			--
	チュラロンコン大学	タイ	チュラロンコン大学	--	12			--
	チカラ大学	インド	チカラ大学	--	6			--
マラヤ大学	マレーシア	マラヤ大学	--	13			--	
			小計	0	55	0	0	0
			合計	237	292	13	16	96

* 新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

** 代替オンラインプログラムを実施

① カリフォルニア大学 1 年留学プログラム

本学での修学 4 年間のうちの 1 年間、カリフォルニア大学デイビス校が実施する Global Study Program に参加する学部学生を対象とするプログラム。通常 3 月下旬に渡航し、春・夏学期は英語集中授業を受講し、秋・冬学期の履修要件を満たす場合は、秋・冬学期の 2 学期間、授業登録を許可された正規の科目を履修することができる。単位互換が可能な科目を履修すれば、取得した単位は本学の単位として認定する。

【国際化推進センター負担経費】

授業料等：留学期間中は本学に在籍し、休学扱いにしない。当該年度の本学授業料（授業料・施設設備費）は、国際化推進センターで負担する。

渡航費：成田/羽田⇄サンフランシスコの往復分は、国際化推進センターで負担する。

【2022 年度派遣実績】

参加学科数：26 学科

応募者数：5 名

派遣者数：5 名

② ダブルディグリープログラム

本学と海外の協定校の両大学で学び、それぞれの必要要件を満たす学生が、修了時に両大学で学位を取得することができるプログラム。現在、国立陽明交通大学、台北医学大学及びサスカチュワソン大学と、ダブルマスターディグリー（DMD）に係る協定を締結し、学生の派遣を行っている。

【国際化推進センター負担経費】

「協定校等への派遣学生事業」の制度を利用して次の経費を負担。

渡航費：日本発の往復航空券を現物支給する。

日 当：上限額の 18 万円を支給する。

宿泊費：上限額の 27 万円を支給する。

㊦ 国立陽明交通大学（台湾）との DMD プログラム

理工学研究科経営工学専攻と、台湾の国立陽明交通大学 College of Management, Department of Industrial Engineering and Management との相互交流プログラム。

修士課程の一定期間、他方の大学で研究し、両大学のそれぞれの必要要件を満たす者は、次の 2 つの学位を得ることができる。

東京理科大学修士（工学）／国立陽明交通大学修士 Master of Science

【2022 年度実績】

応募・派遣者数 0 名

④ 台北医学大学との DMD プログラム

先進工学研究科マテリアル創成工学専攻と、台湾の台北医学大学 College of Biomedical Engineering との相互交流プログラム。

修士課程の一定期間、他方の大学で研究し、両大学のそれぞれの必要要件を満たす者は、次の 2 つの学位を得ることができる。

東京理科大学修士（工学）／台北医学大学 Master of Science

【2022 年度実績】

応募・派遣者数 0 名

⑤ サスカチュワン大学との DMD プログラム

理学研究科応用物理学専攻と、カナダのサスカチュワン大学 Department of Physics and Engineering Physics, College of Art and Science との相互交流プログラム。

修士課程の一定期間、他方の大学で研究し、両大学のそれぞれの必要要件を満たす者は、次の 2 つの学位を得ることができる。

東京理科大学修士（理学）／サスカチュワン大学 Master of Science

【2022 年度実績】

応募・派遣者数 0 名

③協定校等への派遣学生事業

外国の大学等学術研究機関へ中長期の研究を目的として学生を派遣するプログラム。本学指導教員と派遣先大学教員との間で共同研究を実施しており、派遣学生の共同指導に係る合意がある必要がある。

	本学との協定の有無	派遣先大学	派遣先国	研究科・専攻	派遣期間		
1	無	The Institute of Photonic Sciences (ICFO)	スペイン	理学研究科 物理学専攻	2022年7月19日	～	2022年12月3日
2	有	曲阜師範大学	中国	理学研究科 科学教育専攻	2022年5月25日	～	2022年10月5日
3	有	リスボン工科大学	ポルトガル	工学研究科 建築学専攻	2022年9月1日	～	2023年7月16日
4	有	OTH-Regensburg	ドイツ	工学研究科 電気工学専攻	2022年8月31日	～	2022年12月16日
5	有	OTH-Regensburg	ドイツ	工学研究科 電気工学専攻	2022年8月31日	～	2022年12月16日
6	有	サンパウロ大学	ブラジル	理工学研究科 物理学専攻	2022年8月2日	～	2022年12月3日
7	有	パリ・ベルヴィル建築大学	フランス	理工学研究科 建築学専攻	2023年1月20日	～	2023年7月15日
8	有	パリ・ベルヴィル建築大学	フランス	理工学研究科 建築学専攻	2023年1月20日	～	2023年7月15日
9	有	国立陽明交通大学	台湾	理工学研究科 機械工学専攻	2023年3月17日	～	2023年6月23日

【国際化推進センター負担経費】

渡航費：日本発の往復国際航空券（上限 25 万円）を現物支給する。

日 当：1 日につき、1,000 円とし、18 万円を上限とする。

宿泊費：1 泊につき、1,500 円とし、27 万円を上限とする

【2022 年度派遣実績】

派遣者数 9 名 予算執行額：6,350,990 円

協定校への派遣 8 名

《内訳》	曲阜師範大学	1 名	リスボン工科大学	1 名
	OTH-Regensburg	2 名	サンパウロ大学	1 名
	パリ・ベルヴィル建築大学	2 名	国立陽明交通大学	1 名

協定校外への派遣 1 名

《内訳》 The Institute of Photonic Sciences (ICFO) 1 名

④語学研修プログラム

夏期休暇期間又は学年度末の約 1 か月間、学生を海外へ派遣するプログラムであり、現地の英語での授業を体験して語学力を向上させるとともに、異文化生活を通じて広い視野と国際感覚を養うことを目的とする。本プログラムは、本学が企画し、旅行企画及び実施を業者へ委託している。参加費用は、受益者負担として全額参加学生が負担する。

2022 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、夏季プログラムは派遣先機関での対面プログラムは実施せず、代替としてオンラインプログラムを実施したものの、受講希望者がいなかった。春季プログラムは、昨今のわが国での 3 回目、4 回目のワクチン接種が進んでいることや、他国の入国後の行動制限の緩和・撤廃されている状況に鑑み、渡航型で実施した。なお、バンクーバープログラムは最小催行人数に満たなかったため不催行となった。

【夏季に実施したオンラインプログラム】

サンフランシスコプログラム(カリフォルニア大学デイビス校)

バンクーバープログラム (ブリティッシュコロンビア大学)

【春季に実施した渡航型プログラム】

サンフランシスコプログラム (カリフォルニア大学デイビス校)

ロサンゼルスプログラム (カリフォルニア大学アーバイン校)

ハワイプログラム (ハワイ大学マノア校)

バンクーバープログラム (ブリティッシュコロンビア大学)

ビクトリアプログラム (ビクトリア大学)

学部/研究科別 参加者数一覧	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
理学部第一部	16	29	1	1	5
理学部第二部	3	6	0	0	1
工学部	18	25	0	1	5
薬学部	2	5	2	0	0
理工学部	25	36	5	4	7
先進工学部	22	32	1	1	9
経営学部	32	17	0	2	7
学部計	118	150	9	9	34
理学研究科	0	1	0	0	0
工学研究科	0	0	0	0	0
薬学研究科	0	0	0	1	0
理工学研究科	0	0	0	2	0
先進工学研究科	0	1	0	0	0
経営学研究科	0	0	0	0	1

大学院計	0	2	0	3	1
合計	118	152	9	12	35

【夏季実施オンラインプログラム】

	サンフランシスコプログラム	バンクーバープログラム
プログラム実施機関	カリフォルニア大学デイビス校	ブリティッシュコロンビア大学
実施期間	2022年8月12日～9月9日(29日間)	2022年8月9日～9月2日(25日間)
プログラム形態	実施機関が提供する一般コース	実施機関が提供する一般コース
実施形態	Zoomを使用したオンラインプログラム	Zoomを使用したオンラインプログラム
参加者数	0名	0名

【春季実施渡航型プログラム】

	サンフランシスコプログラム	ロサンゼルスプログラム
プログラム実施機関	カリフォルニア大学デイビス校	カリフォルニア大学アーバイン校
実施期間	2023年2月9日～3月12日(32日間)	2023年2月5日～3月5日(29日間)
プログラム形態	実施機関が提供する一般コース	実施機関が提供する一般コース
実施形態	渡航・対面での実施	渡航・対面での実施
参加者数	11名	9名

	ハワイプログラム	バンクーバープログラム
プログラム実施機関	ハワイ大学マノア校	ブリティッシュコロンビア大学
実施期間	2023年3月5日～3月26日(22日間)	2023年2月19日～3月19日(29日間)
プログラム形態	実施機関が提供する一般コース	実施機関が提供する一般コース
実施形態	渡航・対面での実施	渡航・対面での実施
参加者数	1名	不催行

	ビクトリアプログラム
プログラム実施機関	ビクトリア大学
実施期間	2023年2月26日～3月26日(29日間)
プログラム形態	実施機関が提供する一般コース
実施形態	渡航・対面での実施
参加者数	14名

⑤ インターンシッププログラム

各年度末の1～2週間程度、シリコンバレー（アメリカ・カリフォルニア）近郊へ学生を派遣し、現地の企業・ベンチャーキャピタル訪問、起業家・研究者・本学同窓生とのディスカッション及び現地学生との交流を通じて、理工系人材のキャリアパスについて考えるプログラム。参加した学生には、レポートの提出を義務付け、目的意識の確立、経験の再認識ならびに定着を図っている。

企画運営業務は、本学卒業生が代表を務める会社に委託している。業務委託費を除き、参加費用は全額参加学生が負担する。

■ インターンシッププログラム

	2017 年度	2018 年度	2019 年度*	2020 年度**	2021 年度**	2022 年度
理学部第一部	2	2	--	--	--	6
理学部第二部	1	0	--	--	--	0
工学部	1	8	--	--	--	2
工学部第二部	0	0	--	--	--	0
薬学部	1	4	--	--	--	0
理工学部	2	9	--	--	--	7
先進工学部	3	1	--	--	--	2
経営学部	7	7	--	--	--	3
理学研究科	0	1	--	--	--	2
理工学研究科	0	0	--	--	--	2
イノベーション研究科	1	0	--	--	--	0
薬学研究科	--	--	--	--	--	0
合計	19	33	--	--	--	24

* 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止

** 別途「シリコンバレー研修体験 Webinar」を実施

⑥ セルフスタディプログラム

2021 年度からの新たな試みとして、本学学生がコロナ禍でも海外留学やインターンシップの体験及び語学学習が可能なプログラムに関して情報提供を行っており、今年度は合計 4 名の学生が申込を行った。本プログラムは、プログラム提供元が企画・運営を行い、参加費用は、受益者負担として全額参加学生が負担する。

	プログラム名	提供元 / 国	形式	申込者数
⑦	オックスフォード大学春期研修	ICC インターナショナル・コミュニケーションズ・カウンシル	オンラインと対面のハイブリット形式	3 人
④	TOEFL ITP 対策講座	テンプル大学ジャパンキャンパス	オンライン形式	1 人

(2)世界を身近にする環境整備

インターナショナルラウンジ

インターナショナルラウンジは、「世界の入り口はインターナショナルラウンジ」をコンセプトに、多様な価値観を共有する場の提供及び学生の英語学習や海外留学への動機付けを行うことを目的とした施設である。

例年、各キャンパス所定の曜日・時間に英会話のネイティブ講師を派遣し、気軽に英語を話せる環境を整えるほか、英語学習及び留学・国際交流に関する各種イベント・セミナーを開催している。2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、物理的な施設は閉室とし、英会話及び各種イベント・セミナーをオンラインにて実施した。英会話について、利用者へのアンケートにおいてオンラインでの実施を望む声があったため、2023年度においてもオンラインでの実施を予定している。

【2022年度インターナショナルラウンジ利用状態】()は前年度実績

	前期	後期	春休み	イベント・ セミナー	総計
利用者数	1,463名 (1,474名)	1,208名 (1,915名)	881名 (875名)	230名 (228名)	3782名 (4,492名)

①ネイティブ講師派遣 (オンライン)

	前期	後期	春休み
講師数	3名 (1名につき各キャンパス共有のオンラインクラスを1つ担当)	3名 (3つの時間帯に分けて担当)	5名 (平日3名が担当、土曜日及び日曜日それぞれ1名が担当)
期間	2022年4月11日より 2022年7月21日 (実働70日)	2022年9月12日より 2022年12月23日 (実働70日)	2023年2月6日より 2023年3月17日 (実働40日)
時間	月～金 10:30～14:30(4時間)	月～金 ①9:00～13:00 ②13:10～17:10 ③17:20～21:20 ・①、②、③の時間帯(各4時間)でそれぞれ1名ずつ	月～金・土・日 ①9:00～13:00 ②13:10～17:10 ③17:20～21:20 ・月～金:①、②、③の時間帯(各4時間)でそれぞれ1名ずつ ・土:①の時間帯で1名 ・日:②、③の時間帯でそれぞれ1名

利用者数(延べ)	1,463 名	1,208 名	881 名
経費	<ul style="list-style-type: none"> ・国際化推進機構予算 ・講師派遣委託費： 4,400 円/1 時間×4 時間 ×70 日×3 名= <u>3,696,000 円</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・こうよう会国際化対応 助成金 講師派遣委託費： 4,400 円/1 時間×4 時間 ×70 日×3 名= <u>3,696,000 円</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・こうよう会国際化対 応助成：1,804,000 円、 国際化推進機構予算： 44,000 円 ・講師派遣委託費： 4,400 円/1 時間×420 時 間= <u>1,848,000 円</u>

②イベント・セミナー開催

開催数 : 25 回

参加学生数 : 230 名

経費 : 国際化推進センター予算 1,113,000 円

※イベント・セミナーの詳細については別表参照

③その他経費

・定期購読購入費

経費 : 国際化推進センター予算 77,231 円

・その他備品購入等

経費 : 国際化推進センター予算 31,728 円

2022 年度国際ショナルラウンジオンラインセミナー

	講座名	開催日	時間	参加 学生数	対象
1	TOEIC®講座1～入門編～	5/27 (金)	18:10-21:10	13	・ TOEICの構造や勉強法について学びたい学生 ・ TOEIC受検に慣れていない学生
2	TOEFL講座1 ～Listening&Readingパートを学ぶ～	6/9 (木)	18:10-21:10	15	・ TOEFL iBTまたはITPを受検予定の学生 ・ 海外留学の準備をしている学生
3	TOEIC®講座2 ～800点突破講座～	6/21 (月)	18:10-21:10	12	・ TOEIC800点突破を目指す学生
4	プレゼンテーション講座1 ～入門編～	7/7 (木)	18:10-21:10	11	・ 英語でのプレゼンが初めての学生 ・ 英語プレゼンの基本を学びたい学生
5	TOEIC勉強法	9/15 (木)	18:10-21:10	12	・ TOEICのスコアアップにつながる学習方法、テキストを知りたい学生
6	TOEIC®講座3～600点突破講座～	10/7 (金)	18:10-21:10	10	・ TOEICを受験したことがある学生 ・ TOEIC600点突破を目指す学生
7	プレゼンテーション講座2～体験編～	10/27 (木)	18:10-21:10	4	・ 過去、英語でのプレゼンを行ったことがある学生 ・ 英語でのプレゼンスキルを向上させたい学生
8	TOEIC®講座4～800点突破編～	11/18 (金)	18:10-21:10	9	・ TOEICを受験したことがある学生 ・ TOEIC800点突破を目指す学生
9	TOEFL®講座2 ～Speaking&Writingパートを学ぶ～	12/6 (火)	18:10-21:10	8	・ TOEFL iBTまたはITPを受検予定の学生 ・ 海外留学の準備をしている学生
10	プレゼンテーション講座3～実践編～	12/15 (木)	18:10-21:10	2	・ 国際学会参加を控えている学生
11	技術英語講座	2/24 (金) 3/3 (金)	両日 14:00-15:30	2/24 : 18名 3/3 : 10名	・ 技術英検受検を見据える学生 ・ 研究における文章作成を学びたい学生 ・ 文法をしっかりと見直したい学生
12	ビジネス英語講座	3/17 (金)	9:00-16:0	8	・ TOEIC® L&R TEST スコア700点以上から900点未満の学生 ・ 卒業後に英語を使って働きたい学生

2022 年度国際ラウンジオンラインイベント

	講座名	開催日	時間	参加 学生数	対象
1	英会話超初心者のための入門クラス	4/18 (月)	10:30-14:30 (全コマ)	参加者定員 なし	・英会話に関心のある学生 ・すべて英語で話すのに抵抗がある学生
2	英会話超初心者のための入門クラス	5/18 (水)	10:30-14:30 (全コマ)	参加者定員 なし	・英会話に関心のある学生 ・すべて英語で話すのに抵抗がある学生
3	講師の出身国について知ろう！	4/28 (木)	12:10-12:50 (1コマ)	参加者定員 なし	・英会話初心者
4	英会話超初心者のための入門クラス	6/15 (水)	10:30-14:30 (全コマ)	参加者定員 なし	・英会話に関心のある学生 ・すべて英語で話すのに抵抗がある学生
5	BOSCHインターン学生イベント	7/1 (金)	18:00-19:30	15	・様々な国からの留学生と交流したい学生 ・BOSCHのような国際的な企業で働く様子について聞きたい学生
6	英会話超初心者のための入門クラス	7/14 (木)	10:30-14:30 (全コマ)	参加者定員 なし	・英会話に関心のある学生 ・すべて英語で話すのに抵抗がある学生
7	TOEIC®Program説明会	7/15 (金)	18:00-18:30	14	・TOEIC®に関心のある学生 (未受験、これから受験する人の双方を含む) ・これから留学・就活をひかえている学生
8	TOEIC®Program説明会	9/15 (木)	17:30-18:00	10	・TOEIC®に関心のある学生 (未受験、これから受験する人の双方を含む) ・これから留学・就活をひかえている学生
9	理系人材の世界での貢献～秋山先生の軌跡～ キャプテン秋山カリブ海の島に数学文化の贈り物 (学外参加者あり)	10/21 (金)	18:10-19:40	11	・卒業後世界で活躍したい学生
10	理系人材の世界での貢献②～地球のミカタ～ 独立行政法人国際協力気候 (JICA) 地球環境 部次長 宮崎明博さんに学ぶ (対面とオンラインのハイブリッド形式)	11/19 (土)	14:00-15:30	17 (対面：6) (オンライン：11)	・卒業後世界で活躍したい学生 ・環境問題等に関心のある学生 ・発展途上国支援等に関心のある学生
11	理系人材の世界での貢献③ 日本貿易振興機構 (JETRO) 高多篤史さん講演会	12/13 (火)	18:30-20:00	10	・卒業後世界で活躍したい学生 ・貿易に関心のある学生
12	クリスマス&新年企画	12/14 (水)	終日 (9:00-21:20)	参加者定員なし	・英会話に関心のある学生 ・外国文化に関心のある学生 ・英会話初心者
13	カリフォルニア留学体験談	2/28 (火)	18:10-19:10	21	・留学に関心のある学生 ・アメリカに関心のある学生 ・海外大学院進学を考えている学生

＜3. 大学院生の国際会議発表促進＞

大学院博士後期課程学生国際学会等派遣事業

本学大学院博士後期課程学生が、海外で開催される国際学会等で研究発表することを推進し、学生が研究者として国際力をつけて、知見を広めることで、国際的に貢献できる人材を育成することを目的とする。派遣期間は、14 日以内（日本時間にて、出発日から帰国日までの換算）。

【国際化推進センター負担経費】

航空賃：学校法人東京理科大学国外出張旅費支給基準に準じ、エコノミークラスの航空賃の実費を支給する。

地 域	支給上限額
韓国・台湾	5 万円
東アジア（韓国・台湾を除く）	10 万円
アジア（上記を除く）・大洋州地域	15 万円
南北米大陸・欧州・中近東・アフリカ地域	25 万円

【2022 年度実績】

派遣者数 23 名 予算執行額：4,807,760 円

次表※印の 3 名はイノベティブ博士人材育成プロジェクト対象者であり、当該事業の予算から経費が執行されたため、国際化推進センター予算からの執行はなかった。

	研究科	専攻	国名	都市名	出発日	帰国日	派遣 日数
1	理学研究科	物理学専攻	イスラエル	レホボト	2022年12月10日	2022年12月18日	9
2	理学研究科	物理学専攻	イギリス	ロンドン	2023年1月25日	2023年1月29日	5
3	理学研究科	化学専攻	イタリア	リミニ	2022年8月26日	2022年9月4日	10
4	理学研究科	応用物理学専攻	米国	ボストン	2022年7月17日	2022年7月21日	5
5	理学研究科	応用物理学専攻	米国	サンディエゴ	2022年11月12日	2022年11月17日	6
6	理学研究科	応用物理学専攻	米国	サンディエゴ	2022年11月12日	2022年11月17日	6
7 (※)	理学研究科	応用物理学専攻	米国	ラスベガス	2023年3月5日	2023年3月13日	9
8	薬学研究科	薬科学専攻	米国	テキサス	2022年9月8日	2022年9月14日	7
9	工学研究科	情報工学専攻	ラトビア	リガ	2022年7月9日	2022年7月16日	8
10	工学研究科	情報工学専攻	スウェーデン	ストックホルム	2022年9月2日	2022年9月11日	9
11	工学研究科	情報工学専攻	モルディブ	マレ	2022年11月15日	2022年11月20日	6
12	工学研究科	経営工学専攻	ラトビア	リガ	2022年7月9日	2022年7月16日	8
13	工学研究科	経営工学専攻	米国	ハワイ	2022年7月10日	2022年7月18日	9
14	工学研究科	機械工学専攻	フランス	リヨン	2022年7月9日	2022年7月16日	8
15 (※)	理工学研究科	物理学専攻	米国	ボストン	2022年11月30日	2022年12月2日	3
16	理工学研究科	情報科学専攻	米国	サンディエゴ	2022年6月12日	2022年6月19日	7
17	理工学研究科	応用生物学専攻	フランス	パリ	2022年9月17日	2022年9月23日	7
18	理工学研究科	電気工学専攻	ドイツ	ハノーバー	2022年9月4日	2022年9月14日	11
19	理工学研究科	電気工学専攻	デンマーク	コンゲンス・ リュンビー	2022年9月12日	2022年9月19日	8
20 (※)	理工学研究科	電気工学専攻	オーストラ リア	キャンベラ	2023年1月2日	2023年1月9日	8
21	理工学研究科	機械工学専攻	フランス	パリ	2022年9月16日	2022年9月24日	9
22	理工学研究科	土木工学専攻	スペイン	グラナダ	2022年6月18日	2022年6月24日	7
23	理工学研究科	土木工学専攻	米国	ワシントン DC	2023年1月8日	2023年1月14日	7

<4. 若手研究者国際学会派遣の促進>

若手研究者国際学会派遣事業

海外で開催される国際学会で研究発表する若手研究者に旅費を支給することにより、国際人脈を構築する等、若手研究者がキャリアの早期段階から国際的に活躍することを推進するため、本事業を実施する。

【国際化推進センター負担経費】

- ・渡航を伴う学会参加の場合：エコノミークラスの往復航空賃（空港までの国内旅費を含む）

地 域	支給上限額
韓国・台湾	5 万円
東アジア（韓国・台湾を除く）	10 万円
アジア（上記を除く）・大洋州地域	15 万円
南北米大陸・欧州・中近東・アフリカ地域	25 万円

- ・オンラインでの学会参加の場合：上限を 10 万円とした学会参加費

【2022 年度実績】

学会参加者数 合計 10 名

- ・渡航を伴う学会参加者：9 名
- ・オンラインでの学会参加者：1 名

予算執行額 合計 1,791,520 円

- ・渡航を伴う学会参加：1,691,520 円
- ・オンラインでの学会参加者：100,000 円

- ・渡航を伴う学会参加者

	学部	学科	職名	講演の種類	国名	都市名	出発日	帰国日	派遣日数
1	理学部第二部	数学科	講師	ポスター発表	ラトビア	リガ	2022年7月10日	2022年7月15日	6
2	理学部第二部	数学科	講師	ポスター発表	イギリス	ロンドン	2022年12月17日	2022年12月21日	5
3	理学部第二部	物理学科	嘱託助教	口頭発表	アメリカ	ハワイ	2022年10月22日	2022年10月30日	9
4	理工学部	建築学科	嘱託助教	口頭発表	デンマーク	コペンハーゲン	2022年9月16日	2022年9月25日	9
5	理工学部	機械工学科	嘱託助教	ポスター発表	アメリカ	アトランタ	2023年1月17日	2023年1月20日	4
6	理工学部	土木工学科	嘱託助教	口頭発表	スペイン	グラナダ	2022年6月18日	2022年6月24日	9
7	理工学部	土木工学科	嘱託助教	口頭発表	アメリカ	ワシントンDC	2023年1月8日	2023年1月12日	5
8	経営学部	経営学科	講師	口頭発表	ベトナム	ハノイ	2022年12月8日	2022年12月11日	4

- ・オンラインでの学会参加者

	学部	学科	職名	講演の種類	国名	都市名	学会開始日	学会終了日	派遣日数
1	工学部	機械工学科	嘱託助教	口頭発表	米国	インディアナ	2022年11月19日	2022年11月24日	6

<5. 外国人教員の増員並びに研究室の国際化の推進>

(1)外国人教員の増員

外国人教員の増員

外国人教員の雇用状況【2022 年度実績】 50 名／（2021 年度実績 51 名）

本学専任教員数（職名別）

所属 学部等	学科・専攻等	教授			准教授			講師			助教			計		
		計	女性	外国籍	計	女性	外国籍	計	女性	外国籍	計	女性	外国籍	計	女性	外国籍
教養教育 研究院	神楽坂キャンパス教養部	17	2	0	9	5	2	5	3	2	1	0	0	32	10	4
	葛飾キャンパス教養部	10	1	2	13	5	1	7	5	1	1	0	1	31	11	5
	野田キャンパス教養部	9	1	0	13	1	1	5	2	1	2	0	2	29	4	4
	北海道・長万部キャンパス教養部	5	1	0	4	0	1	3	1	2	0	0	0	12	2	3
教養教育研究院		41	5	2	39	11	5	20	11	6	4	0	3	104	27	16
理学部 第一部	数学科	9	1	0	1	1	0	1	0	0	8	0	0	19	2	0
	物理学科	8	1	0	3	0	1	0	0	0	8	2	1	19	3	2
	化学科	8	0	0	3	0	0	0	0	0	8	0	0	19	0	0
	応用数学科	6	1	0	5	0	0	1	1	1	7	1	0	19	3	1
	応用物理学科	8	0	0	3	0	0	0	0	0	5	0	1	16	0	1
理学部第一部		9	0	0	1	0	0	1	0	0	6	0	0	17	0	0
理学部第一部		48	3	0	16	1	1	3	1	1	42	3	2	109	8	4
理学部 第二部	数学科	4	1	0	1	0	0	2	0	0	4	0	0	11	1	0
	物理学科	6	0	1	0	0	0	1	0	0	3	2	1	10	2	2
	化学科	3	0	0	3	1	0	2	0	0	2	0	0	10	1	0
理学部第二部		13	1	1	4	1	0	5	0	0	9	2	1	31	4	2
薬学部	薬学科	19	3	0	7	1	0	3	1	0	14	4	1	43	9	1
	生命創薬科学科	8	0	0	3	0	0	0	0	0	6	3	0	17	3	0
薬学部		27	3	0	10	1	0	3	1	0	20	7	1	60	12	1
工学部	建築学科	11	1	0	2	1	0	0	0	0	8	0	3	21	2	3
	工業化学科	6	0	0	5	1	0	1	0	0	4	0	0	16	1	0
	電気工学科	10	0	0	4	0	0	0	0	0	5	1	1	19	1	1
	機械工学科	8	0	0	3	0	0	1	0	0	4	0	0	16	0	0
	情報工学科	7	1	0	5	1	0	1	0	0	9	2	3	22	4	3
工学部		42	2	0	19	3	0	3	0	0	30	3	7	94	8	7
理工学部	数学科	8	3	0	5	0	0	2	0	0	5	0	0	20	3	0
	物理学科	10	0	0	3	0	0	0	0	0	8	1	0	21	1	0
	情報科学科	6	1	0	3	1	0	3	0	0	5	1	0	17	3	0
	応用生物科学科	5	0	0	7	2	0	0	0	0	6	2	0	18	4	0
	建築学科	9	1	0	2	0	0	1	0	0	8	2	4	20	3	4
	先端化学科	8	0	0	5	0	0	0	0	0	5	2	0	18	2	0
	電気電子情報工学科	11	0	0	7	1	0	0	0	0	6	1	1	24	2	1
	経営工学科	6	1	0	3	0	0	1	1	1	4	3	2	14	5	3
	機械工学科	11	0	0	2	0	0	2	0	0	4	0	1	19	0	1
	土木工学科	10	0	0	2	0	0	0	0	0	6	3	1	18	3	1
理工学部		84	6	0	39	4	0	9	1	1	57	15	9	189	26	10
先進 工学部	電子システム工学科	8	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0	1	13	0	1
	マテリアル創成工学科	11	0	0	3	0	0	1	0	0	8	2	0	23	2	0
	生命システム工学科	7	2	0	5	0	0	0	0	0	5	2	1	17	4	1
先進工学部		26	2	0	12	0	0	1	0	0	14	4	2	53	6	2
経営学部	経営学科	9	2	0	3	1	1	5	3	0	4	1	1	21	7	2
	ビジネスエコノミクス学科	7	0	1	3	0	0	3	0	0	1	1	0	14	1	1
	国際デザイン経営学科	4	0	0	3	2	1	2	1	0	2	1	0	11	4	1
経営学部		20	2	1	9	3	2	10	4	0	7	3	1	46	12	4
理学 研究科	科学教育専攻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理学研究科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理工学 研究科	国際防災科学専攻	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0
理工学研究科		3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0
経営学 研究科 (専門職 大学院)	経営学研究科技術経営専攻	10	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	11	2	0
経営学研究科		10	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	11	2	0
	教育支援機構	6	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1	0
	総合研究院	4	0	1	0	0	0	5	1	0	7	0	1	16	1	2
	生命医科学研究所	8	0	0	4	0	0	3	0	0	9	3	2	24	3	2
	その他	10	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	1	0
	総計	342	28	5	155	24	8	63	19	8	199	40	29	759	111	50

(2)外国人留学生獲得による研究室の国際化の推進

①ダブルディグリープログラム受入

本学と海外の協定校の両大学で学び、それぞれの必要要件を満たす学生が、修了時に両大学で学位を取得することができるプログラム。現在、国立陽明交通大学、台北医学大学及びサスカチュワン大学と、ダブルマスターディグリー（DMD）に係る協定を締結し、学生の受入れを行っている。

A. 国立陽明交通大学 DMD

理工学研究科経営工学専攻と、台湾の国立陽明交通大学 College of Management, Department of Industrial Engineering and Management との相互交流プログラム。

修士課程の一定期間、他方の大学で研究し、両大学のそれぞれの必要要件を満たす者は、次の2つの学位を得ることができる。

東京理科大学修士（工学） / 国立陽明交通大学 Master of Science

【2022 年度実績】

受入者数 0 名

B. 台北医学大学 DMD

先進工学研究科マテリアル創成工学専攻と、台湾の台北医学大学 College of Biomedical Engineering との相互交流プログラム。

修士課程の一定期間、他方の大学で研究し、両大学のそれぞれの必要要件を満たす者は、次の2つの学位を得ることができる。

東京理科大学修士（工学） / 台北医学大学 Master of Science

【2022 年度実績】

受入者数 1 名 予算執行額 1,300,000 円

C. サスカチュワン大学 DMD

理学研究科応用物理学専攻と、カナダのサスカチュワン大学 Department of Physics and Engineering Physics, College of Art and Science との相互交流プログラム。

修士課程の一定期間、他方の大学で研究し、両大学のそれぞれの必要要件を満たす者は、次の2つの学位を得ることができる。

東京理科大学修士（理学） / サスカチュワン大学 Master of Science

【2022 年度実績】

受入者数 0 名

②協定校等からの学生受入れ事業

教育研究環境の国際化を目的として、外国の大学等学術研究機関から、研究目的の学生を1か月～1年間、本学の研究室で受け入れる制度。協定校からの受入れの場合は、授業料等を不徴収（国際化推進センター負担）とする。

【2022 年度実績】

受入者数 16 名

	本学との協定の有無	派遣大学	派遣国	受入研究科・学部/専攻・学科	受入期間
1	有	リール建築大学	フランス	理工学研究科/建築学専攻	2023年3月1日 ~ 2023年12月31日
2	有	リール建築大学	フランス	理工学研究科/建築学専攻	2023年3月1日 ~ 2023年12月31日
3	有	OTH-Regensburg	ドイツ	工学部/電気工学科	2022年9月17日 ~ 2023年3月30日
4	有	OTH-Regensburg	ドイツ	工学研究科/電気工学専攻	2022年10月1日 ~ 2022年12月31日
5	有	OTH-Regensburg	ドイツ	工学研究科/電気工学専攻	2022年10月1日 ~ 2023年2月28日
6	有	ナンシー建築大学	フランス	理工学研究科/建築学専攻	2022年9月19日 ~ 2023年7月31日
7	有	ナンシー建築大学	フランス	理工学研究科/建築学専攻	2022年10月1日 ~ 2023年8月31日
8	有	パリ・ベルヴィル建築大学	フランス	理工学研究科/建築学専攻	2022年9月1日 ~ 2023年8月31日
9	有	ウィーン工科大学	オーストリア	工学研究科/情報工学専攻	2022年10月1日 ~ 2023年3月31日
10	無	ラス・パルマス・デ・グラン・カナリア大学	スペイン	工学研究科/情報工学専攻	2022年10月1日 ~ 2023年1月31日
11	無	ハンブルグ大学	ドイツ	理学研究科/科学教育専攻	2022年10月1日 ~ 2023年3月31日
12	無	ブルターニュ南大学	フランス	理工学研究科/機械工学専攻	2022年11月7日 ~ 2022年12月19日
13	無	リヨン大学	フランス	生命科学研究科/生命科学専攻	2022年12月1日 ~ 2023年8月8日
14	有	国立釜山大学	韓国	工学研究科/電気工学専攻	2022年12月9日 ~ 2022年12月24日
15	無	トゥーロン大学	フランス	工学研究科/機械工学専攻	2023年2月1日 ~ 2023年6月30日
16	有	OTH-Regensburg	ドイツ	工学部/電気工学科	2023年3月21日 ~ 2023年7月31日

③国費外国人留学生制度

文部科学省では、世界の発展に貢献するような人材を育成する目的や、大学の主体的な留学生交流を促進し国際競争力の強化を図る観点から、国費外国人留学生制度を設けている。本学では次の受入れ形態がある。

A. 大使館推薦

在外公館が主体となり、海外に在住する学生を現地における選考試験の結果に基づき推薦する制度。

B. 大学推薦（一般枠・特別枠）

大学が主に大学間交流協定等を締結する海外の大学と協力して海外に在住する学生を新規渡日者として推薦する制度。

一般枠は、例年学内公募制となっており、要件を満たす留学生を国際化推進センター委員が選考し、本学から推薦している。

特別枠は、本学の理工学研究科国際火災科学専攻が 2021 年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択されており、年度毎に優先配置枠数 6 名を獲得している。優先配置期間は 2022 年度新規渡日分から 3 年間である。

<給付金額>

月額 143,000 円（研究生等）

月額 144,000 円（修士課程及び専門職学位課程）

月額 145,000 円（博士課程）

（特定の地域において就学・研究する者に対し、月額 2,000 円または 3,000 円を月額単価に加算。なお、予算の状況により各年度で金額は変更される場合がある）

※採用形態により授業料等が日本政府より支給される。

<給付期間>

奨学金支給期間は、渡日後に在籍するそれぞれの課程によって異なる。

大学院修士課程、博士課程及び専門職学位課程に在籍する場合、標準修業年限とする。また、研究生等から大学院の正規課程等に進学希望の者で、一定の基準を満たす特に成績優秀な者については、進学に伴う奨学金支給期間の延長審査を受け、奨金支給期間が延長されることがある。

2022 年度 国費外国人留学生数 内訳

大使館推薦による国費外国人留学生	3 名
大学推薦による国費外国人留学生（一般枠）	6 名
大学推薦による国費外国人留学生（特別枠）	16 名
合 計	25 名

④ マレーシアツイニングプログラム

マレーシア政府の資金によるマレーシア日本高等教育プログラム(MJHEP) とコンソーシアムを組む日本の大学(加盟校 24 大学)が、現地で3年間の準備教育、専門基礎教育(電気系・機械系)を受けたマレーシア人学生を3年次に編入学させるプログラムである(2010年度より受入れ開始)。

本学の受入学科は、工学部電気工学科、理工学部電気電子情報工学科、機械工学科で、毎年11月に現地で編入学試験が実施され、2020年度(2021年度入試)まで、この制度によりマレーシアから留学生を受け入れてきた。

2022年度(2023年度入試)から新たに UniKL JUP プログラムが実施されている。UniKL JUP プログラムはマレーシア日本高等教育プログラム(MJHEP)から制度上大きな変更はない。開始された UniKL JUP によって、1名留学生の入学が決定した。

【2022年度(2023年度入試)実績】

		2020	2021	2022	2023	計
工学部	電気工学科	0	0	実施なし	1	2
理工学部※1	電気電子情報工学科	0	0		0	0
	機械工学科※1	0	2		0	4

※1 理工学部は 2023年4月から「創域理工学部」に名称変更した。

※2 理工学部機械工学科は 2023年4月「創域理工学部機会航空宇宙工学科」に名称変更した。

⑤ IAESTE による海外学生受入れ

IAESTE (The International Association for the Exchange of Students for Technical Experience) が仲介を行う、理工農薬学系国際インターンシップ。日本では一般社団法人日本国際学生技術研修協会が事務局を務め、欧米を中心に研修生を受け入れている。

【国際化推進センター負担経費】

滞在費：30,000円/週、宿泊手数料：12,000円/回

【2021年度実績】

受入研修生数 4名、予算執行額 1,248,000円

	学部・研究科	学科・専攻	国籍	受入期間開始日	受入期間終了日	在籍日数
1	工学部	機械工学科	チュニジア	2022年8月1日	2022年9月30日	61
2	薬学部	生命創薬科学科	セルビア	2022年10月17日	2022年12月9日	54
3	工学研究科	機械工学専攻	ポルトガル	2022年10月3日	2022年12月16日	75
4	工学研究科	機械工学専攻	シリア (所属大学はドイツ)	2022年9月5日	2022年11月25日	82

⑥科学技術振興機構「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）」

本事業は、産学官の緊密な連携により、アジアを中心とする国・地域の優秀な青少年に日本の先端的な科学技術に触れる機会を提供することを通して、科学技術イノベーションに貢献しうる海外からの優秀な人材との継続的な研究等の交流を促進することを目的とする。

【交流形態】（大学対象）

▶A コース「科学技術体験コース」

日本の先端的な科学技術に触れる機会と日本の研究者・学生等との交流体験を通して、科学技術分野における継続的な交流を促進する。

▶B コース「共同研究活動コース」

国際共同研究のテーマや計画の策定、予備的な実験など共同研究を開始する、あるいは具体的な共同研究に参加させる活動を対象とする。

▶C コース「科学技術研修コース」

送出し国・地域のニーズあるいは地球規模課題の解決に資する科学技術に関する具体的な技術・能力の習得の機会を提供する活動を対象とする。

◆オンライン交流コース（代替プログラム）

採択された交流計画について、実招への補完（代替手段）として、オンラインで交流の継続を図ろうとするもの。

◆オンラインプログラム

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により諸外国との往来制限が長期化する中、オンラインだからこそ可能な交流を実施するもの。

過去に実施した基となる 交流計画のコース	オンライン交流（フォローアップ支援）で想定される内 容
科学技術体験コース (A コース)	単なるビデオ映像の紹介だけでなく、新たな機関、研究者・学生との双方向交流が含まれるもの
共同研究活動コース (B コース)	研究の新たな展開や発展が認められるもの
科学技術研修コース (C コース)	研修内容の拡充が認められるもの

【2022 年度実績】

オンラインプログラム : 1 件 （支援金総額：152,460 円）

2022 年度採択一覧

	区分	受入部局	受入大学	国名	人数	支援金合計
1	オンライン	理学部第一部物理学科	曲阜師範大学	中国	15	¥152,460

⑦双方向交流プログラム派遣

本学が協定を結ぶ海外の大学との間で学生の相互短期派遣を行い、国際感覚を培うことを目的としている。

本学学生の派遣は1週間程度で、派遣先の大学の講義の受講や、その国の文化などを体験する。なお、本学で海外の大学の学生を受け入れる際には、当該大学に派遣した学生も引率補助などホスト役として参加し、異文化交流を促進する。

【2022 年度実績】 0 件

⑧双方向交流プログラム受入れ

本学が協定を結ぶ海外の大学との間で、学生を相互に派遣し、学生の国際感覚を培うことを目的としている。

海外からは協定校の学生を1週間程度受け入れ、本学授業の受講や研究室での共同研究や日本文化体験等を行う。また、先に当該大学に派遣した学生もホスト役として参加し、派遣・受入のお互いの立場を入れ替えて、異文化交流を行う。

【2022 年度実績】 0 件

⑨さくらサイエンス双方向交流派遣

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の日本・アジア青少年サイエンス交流事業（SSP）を通じて本学に受入れた機関に対し、本学の教員及び学生を派遣して、双方向で交流を深めることを目的としている。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、派遣を中止した。

【2022 年度実績】 0 件

⑩ビザ取得支援

本学の国際化推進支援のため、国際化推進センターでは、本学で直接雇用する外国人研究者、又は本学に新規入学予定である外国人留学生に向けて、長期滞在者向けの在留資格交付申請を代行している。

在留資格認定証明書に係る事務手続きを円滑に進めるため、学外行政書士法人と業務委託契約を本学は結んでおり、在留資格申請者の負担軽減に努めている。一定の要件を満たす場合の業務委託料は、国際化推進センター予算で負担している。

当課で支援する在留資格の種類は、「教授」及び「留学」である。

2022 年度当サービスを通しての在留資格認定証明書申請件数（2023 年 3 月時点）

在留資格	種別	件数
教授	ポストドクトラル研究員	3
	プロジェクト研究員	1
留学	協定校等からの非正規留学生	17
	学位取得を目的とした正規留学生	23

(3) 英語を用いた指導による研究室の国際化の推進

教員向け実務英語研修「Academic English Brush-up Seminar」

教員の英語プレゼンテーションや英語を用いた講座運営に必要な技術の向上を目的として、FD セミナーを、教育開発センターと共催した。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面ではなくオンラインで開催した。

▶第1回セミナー：英語プレゼンテーション・Q&A 実践トレーニング（前期）

開催日時：1回あたりの定員を4名の少人数制とし、2回実施

セミナー1) 2022年8月23日（火）9:00~12:10

セミナー2) 2022年8月23日（火）14:00~17:10

参加者：14名

講師：Dr. Joe Hüg（一般財団法人国際教育振興会 日米会話学院）

予算執行額：111,360円

▶第2回セミナー：アカデミック英会話

開催日時：2022年8月30日（月）9:00~12:00

参加者：8名

講師：Mr. Dwayne Gregory（株式会社アルクエデュケーション）

予算執行額：275,000円

▶第3回セミナー：英語ファシリテーション実践講座

開催日時：2022年11月5日（土）9:00~12:00

参加者：4名

講師：吉中 昌國 氏（株式会社アルクエデュケーション）

予算執行額：283,976円

▶第4回セミナー：英語プレゼンテーション・Q&A 実践トレーニング（後期）

最少催行人数を下回ったため、開催を中止した。

<6. 海外教育研究期間との連携強化>

(1) 海外教育研究期間との連携強化

海外協定校

2023年2月1日現在、30か国・地域の80大学2機関と協定を締結しており、教職員及び学生の交流、共同研究、情報及び刊行物の交換等を行っている。

【国・地域別協定校数】

(国・地域名はあいうえお順)

地域	国名	協定	地域	国名	協定
アジア	インド	2	欧州	フランス	9
	インドネシア	2		ブルガリア	1
	韓国	6		ポーランド	1
	タイ	4		ポルトガル	1
	台湾	4		モルドバ共和国	1
	中国	15		リトアニア共和国	1
	ベトナム	1		ルーマニア	3
	マレーシア	2		ロシア	1
	計	37		計	36
欧州	アイルランド	1	中南米	コスタリカ	1
	イタリア	1		ドミニカ共和国	1
	英国	2		ブラジル	1
	オーストリア	2		計	3
	カザフスタン	1	北米	カナダ	2
	スペイン	3		米国	5
	スロベニア	1		計	7
	ドイツ	5	総計	82	
	フィンランド	1			

(2) 教員交流による海外教育研究機関との連携強化

① 協定校からの研究者受入れ事業

協定校との交流の促進を目的として、協定に基づく研究者交流を行う。

【国際化推進センター予算による支給経費】

協定に定められた費目（日当、宿泊費、渡航費）を支給する。

【2022 年度実績】

受入者数 1 名

	派遣大学	派遣国	受入研究者職名	受入研究科/専攻	受入期間
1	ストラスブール大学	フランス	教授	理学研究科/物理学専攻	2023年3月13日 ~ 2023年3月27日

② 外国人招へい教員事業

外国の学界で活躍する優れた外国人教員等を本学に一定期間招へいすることで、当該学部および研究科等の国際化推進に寄与することを目的とする。

【国際化推進センター予算による支給経費】

航空費：エコノミークラスの往復航空賃

滞在費： 日額 10,000 円～12,000 円（客員宿舎を利用しない場合は 15,000 円～17,000 円）

【2022 年度実績】

招へい者数 8 名 予算執行額 3,676,201 円

	学部・研究科	学科・専攻	招へい者 職名	国・地域	招へい者 所属研究機関	出発日	帰国日	滞在 日数
1	理学研究科	応用物理学専攻	准教授	ポーランド	ワルシャワ大学	2023年1月15日	2023年2月11日	28
2	工学研究科	建築学専攻	教授	スペイン	カタルーニャ 工科大学	2022年9月9日	2022年9月18日	10
3	工学研究科	電気工学専攻	Junior Researcher	フランス	University of Bordeaux	2022年10月3日	2022年10月23日	21
4	理学研究科	化学専攻	Professor	インド	Cochin University of Science and Technology	2022年11月1日	2022年11月26日	26
5	理工学研究科	国際火災科学 専攻	教授	中国	武漢大学	2022年12月4日	2022年12月15日	12
6	理工学研究科	機械工学専攻	講師	イギリス	ニューキャッス ル大学	2023年3月4日	2023年3月18日	15
7	理学研究科	応用数学専攻	—	フランス	Lycée César Baggio退官済み	2023年2月27日	2023年3月13日	15
8	経営学部	国際デザイン 経営学科	Associate Professor	オースト ラリア	University of Technology Sydney	2023年3月6日	2023年3月21日	16

③外国人招へい教員（オンライン）事業

優れた教育研究の実績を有する外国人教員・研究者を本学にオンラインで招へいする。英語による専門分野の講義・講演等を実施し記録することを通じて、オンラインを活用した教育・研究活動の経験を共有し、当該学科および研究科の教育研究の国際化を推進する。

【国際化推進センター予算による支給経費】

謝金：講義・講演 1 回につき、20,000 円～30,000 円、外国送金手数料

【2022 年度実績】

招へい者数 1 名 予算執行額 39,500 円

招へい者内訳

	学部・ 研究科	学科・ 専攻	招へい者 職名	国・地域	招へい者 所属研究機関	開始日	終了日
1	理学部 第二部	化学科	教授	インド	Chaudhary Charan Singh University	2022 年 10 月 12 日	2022 年 10 月 12 日

<7. その他>

(1) 学生への情報提供の充実

① パンフレットの作成、サイトの更新

留学・国際交流パンフレット・サイト

パンフレットは国際化推進センターで実施している海外留学プログラムの学内広報を目的に作成し、学生の父母、新入生、留学説明会参加者及び希望する学生等へ配布を行っている。父母懇談会やオープンキャンパスでの使用及び各学部新入生への配付用として、2022 年度も紙のパンフレットを作成した。

また、2021 年度に作成した Web サイトの留学体験談を追加し、各プログラムを常に最新の状態で公表できるように整備した。

予算執行額：991,870 円

② チャットボットの導入

留学プログラムの情報や当課で提供するサービスに学生がアクセスしやすくなるよう、チャットボットを導入した。導入初年度に当たる 2022 年度に限り、既にチャットボットを活用している情報システム課の契約の範囲内で、250 件分の FAQ を当課分として利用することになった。

チャットボットは本学ホームページ内及び LETUS に設置し、学生からの質問・要望を適宜 FAQ に反映させる形で活用する。

予算執行額：0 円

③ LINE

学内広報強化の一環として、2018 年 6 月より、それまでのメーリングリストによる情報配信に代わりに、日本国内で非常に高い普及率を誇る LINE による情報配信へ切り替えた。

2023 年 3 月 31 日時点で友達数（登録者数）は 1,352 名。

年会費：99,000 円

(2) 海外留学等における危機管理のための施策

① J-TAS 利用

特定非営利活動法人海外留学生安全対策協議会（JCSOS）が提供する、派遣学生向け・教育機関向けの危機管理サービスを、J-TAS サービスと呼ぶ。

派遣学生向けには、海外留学生サポートサービス（日常のトラブルから緊急時の相談まで 24 時間 365 日受け付ける）や、医療アシスタンスサービス（日本人の看護師・救急医が 24 時間 365 日対応し。精神科を含む専門的医療相談をカバー）となっている。

大学向けには、派遣学生、大学、アシスタンス会社、保険会社と情報を共有することで一元化し、傷害・事故の際には、一報を受けたアシスタンス会社の判断で迅速な初動対応を行い、事故処理までを海外旅行保険（渡航者契約）、学校向け危機管理サポートなどと組み合わせて行う。

利用件数 : 95 件

予算執行額：サービス利用料 487,984 円

② 学生事故対策費用保険

留学する学生が個人で加入する海外旅行傷害保険に加え、学生が事故等に遭遇した際に、大学が各種費用の支出を余儀なくされた場合、その損害費用をてん補する 4 つの保険が、学生事故対策費用保険である。

見舞費用保険金 : 弔慰金又は見舞金を大学が支払う場合。

救援者費用保険金 : 家族や大学の代理人が救援のため現地に赴く費用を大学が負担する場合。

事故対応費用保険金 : 大学が事故対応のために大学関係者を現地に派遣した場合。

臨時費用保険金 : 大学が臨時に負担した費用に対し、救援者費用保険金と事故対応費用保険金の合計 20%に相当する額を大学に支払う。

※なお、本保険は上記 J-TAS と補償内容が重複しているため、業務効率化の観点から、2023 年 2 月 28 日に契約満了となった。

利用件数 : 61 件

予算執行額：保険料 71,613 円

③ 大学が企画する海外留学のための賠償責任保険（施設賠償責任保険）

大学が企画する留学制度を利用して、海外に留学する学生が、留学活動中に第三者に対して損害を発生させたことによって、第三者が大学に賠償責任を求めた場合に対応する保険である。

賠償責任保険：1 名あたり 1 億円 / 1 事故あたり最大 10 億円

利用件数 : 0 件

予算執行額：契約料 58,334 円

(3) 学内宿泊施設の管理・利用促進

グローバル人材の育成、国際交流の場の提供を目的とし、野田キャンパス内に「野田国際コミュニティハウス」を設置している。

当コミュニティハウス内には、ハウスアシスタント（以下「HA」という）と呼ばれる日本人留学生とペアで居住するシェアルームがあるが、国際化推進センター事業で受入れる短期滞在の外国人留学生が当施設へ入居し、日々の生活のサポートをHAがサポートしている。

協定校等からの受入れ学生が入居を希望する場合、一定の期間、国際化推進センター予算で外国人留学生の利用料の補助をしている。

2022 年度当コミュニティハウス利用実績（外国人留学生）：

国籍	入居者数
台湾	1
スペイン	1
フランス	2

(4)学外団体の利用

①トビタテ！留学 JAPAN 新日本代表プログラム

文部科学省では、2013 年度から日本の若者の海外留学を後押しする「トビタテ！留学 JAPAN」を官民共同で推進している。2020 年度までの実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で 2022 年度まで延長された第 1 ステージの事業では、本学では留学奨学金「日本代表プログラム」1 期～14 期への申請及び奨学金支給に関する支援を行ってきた。

コロナ禍で落ち込んだ留学生数をコロナ前の水準に早期に回復させることを目指し 2023 年度から 2027 年度までの 5 年間、第 2 ステージの実施が決定した。その一環である留学奨学金「新・日本代表プログラム」について、本学では引き続き申請及び奨学金支給に関する支援を行っている。

予算執行額：国際化推進センター予算の執行なし

②日本学生支援機構（JASSO）留学生支援事業

日本学生支援機構（JASSO）は、グローバル化が進展する中、留学生交流を推進するため、外国人留学生の受入・日本人学生の派遣の両面から奨学金の支給等の支援事業を実施しており、以下の事業について本学では国際化推進センターが申請に係る事務を担っている。

【募集事業】

- ▶海外留学支援制度 大学院学位取得型：2022 年度採択 1 名
- ▶海外留学支援制度 協定派遣・受入：追加採択 1 件（支給候補者なしのため辞退）
- ▶東京国際交流館 留学生（非正規生）・研究者宿舍入居者申請：申請者 1 名

以下の事業については今年度の申請者なし。

- ▶留学生受入れ促進プログラム（文部科学省外国人学生学習奨励費）予約制度
- ▶帰国外国人留学生短期研究制度
- ▶帰国外国人留学生研究指導事業
- ▶留学生借り上げ宿舍支援事業
- ▶第一種奨学金（海外大学院学位取得型）
- ▶第一種奨学金（海外協定派遣対象）
- ▶第二種奨学金（海外）
- ▶第二種奨学金（短期留学）

予算執行額：国際化推進センター予算からの支出なし

③独立行政法人日本学術振興会（JSPS）外国人招へい事業

独立行政法人日本学術振興会（JSPS）は、諸外国の優秀な研究者を招へいし、我が国の研究者との共同研究、討議、意見交換等を行う機会を提供することにより、外国人研究者の研究の進展を支援すると同時に、外国人研究者との研究協力関係を通じて、我が国の学術研究の推進及び国際化の進展を図ることを目的として本事業を実施している。

国際化推進センターでは、当該事業申請時の書類とりまとめ及び、招へいする際に必要な様式の提出等の事務手続きを執り行っている。

【募集事業】

- ▶外国人特別研究員（一般）：2022 年度採択 1 件（2022 年度申請 15 件）
- ▶外国人再招へい研究者：2022 年度採択 1 件（JSPS からの受入依頼 1 件）

以下の事業については今年度の採択者なし。

- ▶外国人特別研究員（サマー・プログラム）
- ▶外国人特別研究員（戦略的プログラム）
- ▶外国人特別研究員（欧米短期）
- ▶外国人招へい研究者（長期）：2022 年度申請 2 件
- ▶外国人招へい研究者（短期）：2022 年度申請 1 件

予算執行額：国際化推進センター予算からの支出なし

④JAFSA

本学の国際化に資する種々の情報を収集するため、JAFSA（国際教育交流協議会）に加盟している。JAFSA は、1968 年に設立され 2003 年に法人格を取得した特定非営利活動法人（NPO）で、300 以上の大学・教育機関・企業を会員団体とするネットワーク組織である。

予算執行額：年会費 150,000 円

提供されるサービス：人材育成（各種研修・セミナー等）、海外フェアへの参加等

⑤JCSOS

学生や大学等の教育機関に対し、危機管理セミナーの実施や海外安全情報の提供等を行うことを通じて、海外で学ぶ日本人学生の安全を図ることを目的として設立された特定非営利活動法人海外留学生安全対策協議会（JCSOS）に加盟している。

予算執行額：年会費 100,000 円

提供されるサービス：J-TAS (JCSOS トータルアシスタンスサービス)、危機管理コンサルティング

⑥IAESTE

世界規模での技術的発展、国際理解と親善を促進し、質の高い実践的な滞在費支給型海外インターンシッププログラムを提供する非営利・非政府団体 IAESTE（イアエステ）に加盟し、本学内でのインターンを希望する学生を受入れている。IAESTE は、1948 年にイギリスで設立され 累計 35 万人以上のインターンシップ生を輩出し、世界 80 カ国以上に支部を持つ世界最大級のインターンシップ斡旋組織となっている。

予算執行額：年会費 400,000 円

提供されるサービス：海外インターンシップ学生受入れの斡旋

⑦米国非営利教育財団 スタディ・アブロード・ファウンデーション (SAF)

約 180 を超える名門大学の国際的な大学ネットワークを有する SAF と連携し、本学学生の私費留学やオンライン短期留学を支援する。2022 年度、同団体のプログラムに関する本学学生からの留学申込状況は次のとおり。

No	時期	形態	派遣先国	学部学科	期間
1	2022 年夏出発	オンライン	—	先進工学部 電子システム工学科	2022 年 8 月 15 日 ~ 2022 年 9 月 2 日
2	2023 年春出発	渡航型	米国	経営学部 国際デザイン経営学科	2023 年 3 月 ~ 2023 年 12 月

⑧一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク

オープンバッジとは、紙での証明書に代わるデジタル化された証明書である。オンライン上でオープンバッジを公開することができ、保持者の能力を第三者に証明できる。一般財団法人オープンバッジ・ネットワークは、ブロックチェーン技術による信頼性の高いプラットフォームを有しており、会員に対してオープンバッジ発行に関するサービスを提供している。

本学は 2022 年 3 月に一般財団法人オープンバッジ・ネットワークに入会した。2022 年度、本学学生で国際化推進センターが主催する対象講座（全 3 講座）を受講した学生のうち希望者に、オープンバッジを発行した。

No	実施日	講座名称	バッジ付与数
1	2022 年 7 月 7 日	英語プレゼンテーション講座 1～入門編～	11
2	2022 年 10 月 27 日	英語プレゼンテーション講座 2～体験編～	4
3	2022 年 12 月 15 日	英語プレゼンテーション講座 3～実践編～	2

予算執行額：年会費 55,000 円

(5)その他

外国人留学生獲得施策

4月～10月にかけて、日本語教育機関等での説明会・各種留学フェアへの参加、教員向け説明会・個別相談会を主催し、入試広報を実施している。

2022年7月より、当業務は入試部入試広報課に移管された。2022年度は移行年度に当たり、当課と入試広報課の双方で協力をして業務を進めた。

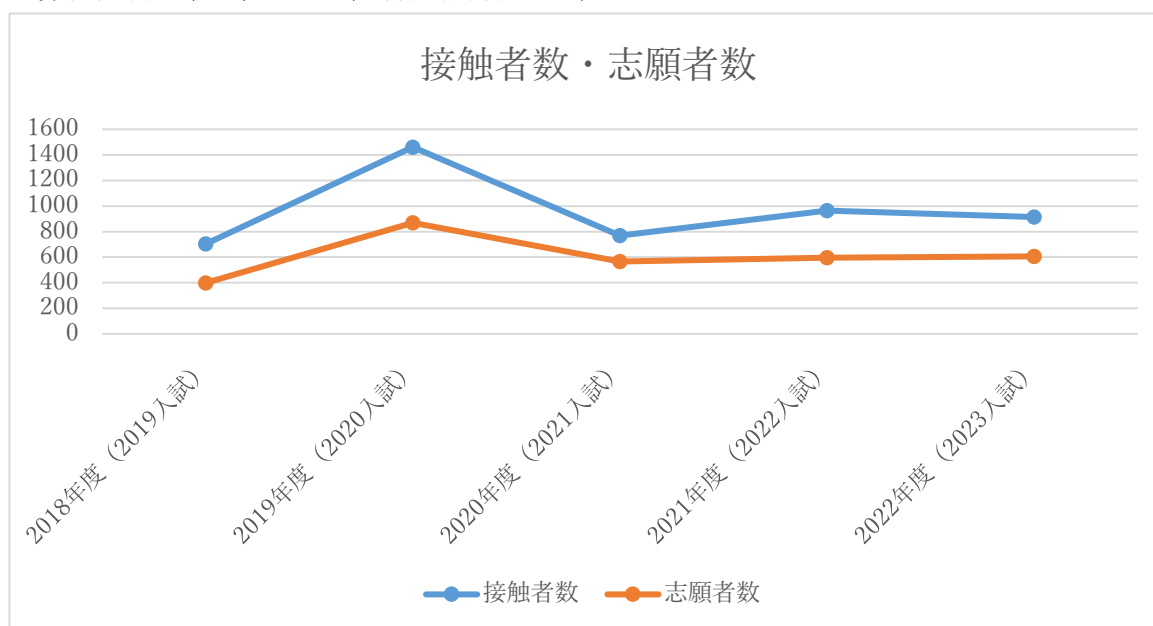
2022年度(2023年度入試)は、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインで実施されていた大学説明会・フェアが、再び対面で開催されるなど、徐々に新型コロナウイルス感染症流行から回復の兆しが見られた。オンライン・対面の双方を利用して日本語学校等と接触し、接触者は前年度より微減したものの、志願者数を維持できたため、概ね目標は達成することができた。

【2022年度(2023年度)実績】

接触者数 : 915名

志願者数 : 607名 (I期 222名/II期 385名)

予算執行額 : 3,086,696円 (国際支援課分のみ)



接触者数

2018年度(2019年度入試) : 704名
 2019年度(2020年度入試) : 1461名
 2020年度(2021年度入試) : 769名
 2021年度(2022年度入試) : 964名
 2022年度(2023年度入試) : 915名

志願者数

2018年度(2019年度入試) : 399名
 2019年度(2020年度入試) : 879名(I期 325名/II期 554名)
 2020年度(2021年度入試) : 566名(I期 185名/II期 381名)
 2021年度(2022年度入試) : 595名(I期 247名/II期 348名)
 2022年度(2023年度入試) : 607名(I期 222名/II期 385名)

【2022 年度実施施策】

- ・国内の日本語学校・予備校・専門学校での説明会

オンライン : 11 回・309 名

講義（対面） : 8 回・143 名

ブース（対面） : 2 回・29 名

- ・国外の日本語学校・予備校での説明会

オンライン : 3 回・32 名

講義（対面） : 2 回・29 名

- ・進学フェア（国内）

オンライン : 1 回・107 名

ブース等（対面） : 4 回・217 名

- ・教員向け説明会・個別相談会（本学主催）

大学説明会 : 1 回・49 名